

本当に、ちゃんとしている無料低額宿泊所というのは、先ほど申し上げたとおり、ちゃんと生活支援やっているわけです。一生懸命やっています。ですから、この次のステップにつながっているケースというのにもたくさん出てきています。しかし、この生活支援の提供に係る人件費等のコストというのは、この生活保護体系の中できちんと位置付けられていないんです。そのために、平成二十七年一月に取りまとめられました厚生労働省の審議会報告書では、生活支援の提供に係るコストに対応する扶助の仕組みを検討することも必要である、このようにしてまとめられています。

ちゃんとした無料低額宿泊所が実施している生活支援については、やっぱり何らかの制度的な付与というものを検討すべきじゃないかと考えますが、いかがでしょうか。

○国務大臣（塩崎恭久君） 今御指摘のように、全国に五百か所余りある無料低額宿泊所の質という意味では、いろいろ幅があつて、今御指摘のとおり、大変悪質なものもあつて、狭い部屋に生活保護受給者を住まわせて高額の利用料を取るといふ、いわゆる貧困ビジネスをやっているところがある一方で、受給者からの日常生活上の相談に応じて、また見守りなどの様々な支援を一生懸命やっていたところもあるということでございます。

そこで、無料低額宿泊所を運営する事業者が生活支援のサービスを提供する場合に、現状では生活保護制度上に提供体制などに関する基準がないという今御指摘の問題点があつて、受給者に支払われる保護費の一部が人件費などのコストに結果として充てられているという実情があるわけですね。その関係審議会でもこの点に関する指摘がなされておりまして、現在、事業者との意見交換等を通じまして現場の実態把握を今鋭意進めておるところでございます。

今後、制度全体の見直しを検討していく中で身をしっかりと詰めてまいりたいと思っております。そして、この無料低額宿泊所の質が上がって、そしてそこで暮らす方々の暮らしの質も上がっていくようにしていきたいというふうに考えております。

○山本香苗君 無料低額宿泊所は一つの住宅セーフティーネットだと思うんですね。誰も置き去りにしないと、独りぼっちをつくらないと。今、厚生労働省で一生懸命、我が事・丸ごと地域共生社会を実現するというのもやっていたらいいんですが、私はこうした中でもしっかりと議論をしていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

脊髄性筋萎縮症、SMAという病気を御存じでいらつしやいますでしょうか。SMAというのは進行性の難病で、筋力の低下と筋肉の萎縮と麻痺

を引き起こす神経難病で、もう既に指定難病になっています。状態によって1型から4型に分類されます。罹患率というのは十万人に一人か二人と。発症は乳幼児期が多くて、重篤な場合は、気管切開して人工呼吸器を付けなければ生きていけません。本人と家族の負担というのはもう本当に想像を絶するものがございます。

今までSMAには治療方法も薬もないと言われてきました。しかし、先日、SMA家族の会の方からSMAの治療薬ができたんですと、昨年十二月二十三日、アメリカで申請後三か月足らずでスピード承認されて、日本でも昨年十二月十二日、PMDAに承認申請がなされたと同じでした。

患者さんたちは、今、日々進行する症状と闘っています。年齢とともに手足の可動域というのが減っていくんです。時がたつにつれて、自分でできることが少なくなっていきます。気管切開をしないで済めば、人工呼吸器を付けなくて済めば、本人、家族の負担はどれだけ軽くなるか。

この治療薬は既にPMDAにおいて優先審査対象にさせていただいているんですが、ですが、一刻でも早く承認をしていただきたい。全国から届いた患者と家族の声も、たった数週間、年末からなんですけれども、このように一冊の冊子になりました。（資料提示）もう一刻も早く承認していただければ、厚労大臣、よろしくお願ひいた

します。

○国務大臣（塩崎恭久君） 今御指摘の脊髄性筋萎縮症、いわゆるSMAですが、この治療薬については御指摘のとおり昨年十二月に承認申請が行われておりまして、患者数が極めて少ない希少疾病用医薬品として優先的な審査を行う医薬品に既に御指摘のように指定をしております。これ、通常十二か月ぐらい掛かると思うわけでありますけれども、九か月以内に承認することを目標として今審査が進められております。

この医薬品は脊髄性筋萎縮症に対して効果が極めて高いというふうに言われている治療薬でありまして、重要な医薬品であることを我々もよく認識しておりますので、今御指摘でございますので、改めて、できるだけ早期に承認できるように、現場の方でもよくこの問題意識を持って対処していきたいというふうに思っております。

○山本香苗君 大阪の小学校三年生のSMA患者の女の子からこんな声が届いています。

私は新薬がなぜ欲しいかという、自分にできることが増えるからです。例えば、髪の毛が結べるようになったり、むせたときに自分でたがが取れるようになったり、冬でも寝返りができたりしたらうれしいからです。しかし、新薬は背中に注射を打たなければなりません。だから痛いんです。麻酔をしても痛いんです。でも、痛いのも入院も我

慢しただけで、自分だけでできることが幾つか増えます。今までお母さんに新薬の注射をしようと言われても、嫌だとはかり私は言っていました。だけど、今思ったら、自分でできることが増えるんだ、そんなチャンス逃すのは、絶対何があっても逃すのは嫌なんだと思いました。だからこそ、日本は新薬を許してくれると私は信じている。それは、私の夢にもなるくらい欲しい薬です。しないとするとどちらかで私のできることの数が決まってくると思います。

一日も早く夢をかなえてあげたいと思います。

総理、一言だけいただけますでしょうか。

○内閣総理大臣（安倍晋三君） この新薬の承認というのは、それを待っている患者さんにとって極めて重大なことであって、自分の人生あるいは命にも関わってくることなんだろうと思います。

また、この言わば希少薬、オーファンドラッグについては、なかなかこれは対象患者数が少ないために製薬メーカーも開発に二の足を踏むところもあるんですが、日本としてもこのオーファンドラッグへの支援等もやっているわけでありまして、せっかく米国で治験が済んで実際に使われているわけでありまして、しっかりとそうした患者さんの思いを受けて、厚労省としてもそうした新薬の承認について臨んでももらいたい、このように思います。

○山本香苗君 ありがとうございます。がらりと変わりまして、日米関係についてお伺いします。

冷戦期以降、今日に至るまで、長きにわたりましてアメリカを中心とする国際秩序というのが維持されてきました。しかし、トランプ大統領は、オバマ大統領同様、アメリカは世界の警察官をやらないと公言されています。今後、アメリカを中心とした国際秩序というものは壊れていくのかどうか、どう変わっていくのか、総理の率直な御意見を伺いたいと思います。

○内閣総理大臣（安倍晋三君） トランプ大統領は就任演説で、今日から米国第一主義という新たなビジョンによって米国は統治されると、そして同時に、また、従来の同盟関係を強化し、新たな同盟関係をつくり上げ、イスラム過激テロリズムを壊滅させること等を明確にしたわけでありまして、米国というのは、言わば自由世界のリーダーとして、米国にしかできないこと等を率先してやってきたわけでありまして。だからこそ、言わば自由世界のリーダーであった。そして、自由、民主主義、基本的人権、法の支配、そうした普遍的価値のチャンピオンであったわけであった。それがどう変化していくのかということは、これからまさにトランプ政権のメンバーが決まり、外交方針が定まってくる中においてこれ見極めていきたい、